

## 焼畑民の生計戦略

— 開発のあり方、カリマンタンの熱帯林と焼畑社会の今後を考える —

筑波大学人文社会系  
寺内大左

### 概要

カリマンタンの熱帯林と焼畑社会は、2000年以降の企業のアブラヤシ農園開発と石炭開発によって根本から改変されようとしています。一方で、カリマンタンの熱帯林と焼畑社会の行く末は、焼畑民の判断に大きく委ねられるようになりました。なぜなら、1998年のスハルト独裁政権崩壊以後、民主化・地方分権化が進み、地元住民が企業の開発に対して受容・拒否の意思を表明することができるようになったからです。

土地開発（農園開発・石炭開発）に直面した焼畑民は何を考え、どのように生きているのでしょうか。発表ではまず焼畑民の生計戦略・生計論理を明らかにします。そして、熱帯林の減少、経済発展、先住民の人権などといった外部者の視点からアブラヤシ農園開発と石炭開発を議論するのではなく、焼畑民の視点から開発の意味や問題を再定位します。最後にこれからの熱帯林と焼畑社会について考えます。

### 内容

1. はじめに：背景、調査地の概要、研究目的、研究方法
2. 焼畑民の生活環境
3. 自然資源利用の組み合わせ
4. 土地開発に対する対応戦略
5. 焼畑民の視点から開発を捉えなおす
6. 開発をめぐる議論を再定位する
7. カリマンタンの生態・社会の今後について考える